

〔川崎市福祉サービス第三者評価結果報告様式〕
(認可保育所版)

対象事業所名(定員)	小学館アカデミー むさししんじょう第2保育園(60人)
経営主体(法人等)	株式会社小学館集英社プロダクション
対象サービス	認可保育所
事業所住所	〒213-0013 神奈川県川崎市高津区末長4-17-17
事業所連絡先	044-850-8651
評価実施期間	平成29年 9月～平成30年 1月
評価機関名	株式会社 ケアシステムズ

評価実施シート (管理者層合議用)	評価実施期間 平成29年 9月19日～平成29年10月25日
	(評価方法) ・園長・主任による合議により作成し、職員会議においても合議内容を確認している
評価実施シート (職員用)	評価実施期間 平成29年 9月19日～平成29年10月10日
	(評価方法) ・全職員を対象とした職員説明会を開催し、職員一人ひとり自己評価シートを配付した。質疑応答にも対応し分かりやすさに努めた。密封できる封筒を用意し、評価機関が直接回収した。
利用者調査	配付日) 平成29年 9月20日 ----- 回収日) 平成29年10月10日
	(実施方法) ・全利用者55世帯に、保育園を通じて封筒に入れたアンケート用紙配付。園内設置の回収箱等に投函を依頼した。保育園から評価機関が回収し、開封および集計作業を行った。回収率は54.5%(回収30世帯/配付55世帯)
評価調査者による 訪問調査	評価実施期間(実施日) / 平成29年11月15日
	(調査方法) ・2名の調査員が園を訪問し、現場観察・書類確認・職員の面接ヒアリング(園長ほかの職員)および子どもの観察を行った。

[総合評価]

<施設の概要・特徴>

1. 立地条件

・JR南武線「武蔵新城駅」より、徒歩10分のところにある。周囲の環境は新興の戸建住宅や畑などになっている。また、近隣にはいくつかの公園があり、子どもたちの散歩コースになっている。

2. 民営保育園

・平成25年4月、小学館アカデミーむさししんじょう第2保育園として開園。平成29年4月に園長交代するも新卒職員の配属以外は変更なくスタートしている。園は開園5年目になり、環境（保育室内、ビオトープ、園庭、屋上など）の整備、見直しをしながら安全な環境作りに取り組んでいる。

[全体の評価講評]

<特によいと思う点>

就学がスムーズに行われるよう園内外で積極的な取り組みを行っている

高津園長会・年長担任会へ出席し小学校生活に関する情報収集を行い、高津区認可園交流・学校見学では年長児が地域の園児や小学生と交流できる機会を設け、就学を楽しみに行えるよう取り組んでいる。園内においては、「楽習保育®」を通して生活に必要な習慣、自主性、社会性を身につけるように支援し、「入学準備プログラム」では就学に向けて必要となる学習の準備を取り入れるなど、積極的に取り組んでいる。

専門職からの意見を反映し職員全体で子どもの支援にあたっている

栄養士、看護師も共に進めていけるように、また専門職の立場からの意見を情報共有し保育に反映できるように職員会議以外に給食保健会議、昼会議にも参加している。保育室を巡回し、子どもたちの様子の把握にも努めており保護者からの相談等にも応じている。食育や健康指導などを通して職員全体で協力体制をとり子どもの支援にあたっている。

保護者との信頼関係が構築されていることがうかがえる

保護者との関わりについては、保育園と家庭と協力して子どもたちを育てていけるような関係性を大切にしている。登園時やお迎え時には保護者からの連絡事項に耳を傾け、家庭での様子を把握することに努めている。また、連絡帳を通じてなど保護者の気づかない子どもの良い点を評価して、直接伝えることも心がけている。今回行った保護者アンケートの園に対する総合的な満足度は、保護者の約9割強が「満足」、「大変満足」と答えており、高い評価が得られている。

<さらなる改善が望まれる点>

アンケート結果の保護者へのフィードバックを更に充実させることを目指している

・行事開催後には都度アンケートを実施して、保護者の意見や要望、感想などを、園側からの働きかけにより把握することを大切にしている。調査結果を取りまとめ、保護者から園の現状・問題を把握し、職員会議などで話し合い改善に向けて取り組んでいる。また、アンケート結果は園内に掲示して保護者にフィードバックし、透明性の確保にも取り組んでいる。ただし結果の報告に留まっていることを踏まえ、「具体的な改善策」や「今後の取り組み」なども一緒に掲示し、内容を充実させることを目指している。

新たに赴任した園長は率先垂範して園運営をリードすることを目指している

・屋打ち合わせや職員会議で現場の状況を共有して必要な指示を出している。園長や主任などの経営層の役割と責任を踏まえながら自ら保育に入り、率先して職務を遂行している。また、園長会や区の園長会、地区の複数の園との交流会で得た情報を持ち帰り、必要な情報を職員に提供し組織一丸となって保育に取り組めるような園環境作りを目指している。職員自身も基本理念・方針に添えるよう、個々の力が発揮できるような人材育成を目指している。

地域と交流できる機会を充実させることを目指している

・園では年間を通じて園内外のさまざまな行事を計画しており、詳しい内容は「園だより」などによって適宜連絡し、保護者の理解が得られるようにしている。散歩では近隣の住民と挨拶を交わしたり、高齢者福祉施設と交流する機会を設けている。さらに、子どもが職員以外の地域の人々と交流できる機会を充実させたり、地域の各種社会資源をさらに有効活用して、子どもと地域の交流活動を充実させることを目指している。

＜サービス実施に関する項目＞

共通評価領域 1 サービスマネジメントシステムの確立
<ul style="list-style-type: none"> ・当園に関する詳細情報は、法人のホームページ、子育てナビ、ホット子育て、ひろばノートなど多くの媒体に掲載されている。公式ブログページでは、日常の保育様子を写真と文章でわかりやすく伝えている。 ・定期的に危険個所の確認をして室内環境を整え、園内外のヒヤリハットマップを作成と掲示を行い安全に関する意識を高めている。 ・法人の取り組みである「楽習保育®」「入学準備プログラム」に加えて年長交流会、小学校見学など就学に向けた様々な取り組みを積極的に行っている。
<ul style="list-style-type: none"> ・法人として入社時、入社年次、職域、職制などの研修制度を設けて、研修を受ける機会を回り、職員の知識向上を図っている。研修後に報告書提出などを行い、必要に応じて職員会議などで報告し、他の職員へ周知を図ることにしている。 ・研修での学びを園へ活かすための取り組みと同様に、法人共通のマニュアルを活用している。さらに園の固有の環境などもあることを踏まえ、法人マニュアルを補完する独自性を取組んだマニュアルを準備することを計画している。多くの職員が関わり意見や意向を取組んだ中で進めることを望みたい。
<ul style="list-style-type: none"> ・入園前の説明会をはじめ、入園後の保護者会、入園のしおり、行事予定表、園だより、給食だより、保健だより、行事だよりなど、様々な手立てで保護者に伝え関係作りに力を入れている。 ・朝夕の送迎時間や懇談会、その他いつでも声を掛け合い、日常を伝えるようにしている。職員の共通理解のため職員会議を開催し意見交換を密にしている。

評価分類 (1) サービスの開始・終了時の対応が適切に行われている。	A
<ul style="list-style-type: none"> ・法人のホームページには保育理念、保育プログラム、一日の流れ、年間行事のほか各保育園の詳細として、利用案内や所在地等の概要が掲載され、資料請求や問い合わせ、パンフレットのダウンロードも行うことができる。公式ブログページでは、日常の保育様子を写真と文章でわかりやすく伝えている。 ・入園予定の保護者にむけて入園前説明と面談を実施している。小学館アカデミー各園共通の「入園のしおり」の内容に沿って保育理念や基本方針、保育園での生活、重要事項や個人情報等の取扱いについても説明し、保護者の同意の上で契約書を取り交わしている。 ・子どもの成長歴、保育歴、保護者の就労状況を考慮し、保護者と相談しながら慣らし保育を実践している。面談時に子どもの好きな遊びや食事、睡眠の状況などを細かく聞き取り、一人ひとりの状況に応じて対応しており、信頼関係を築き不安やストレスが軽減されるように支援している。 ・法人としての取り組みである「楽習保育®」を通して生活に必要な習慣、自主性、社会性が身につくように指導している。年長児には「入学準備プログラム」、年長交流会、小学校見学など就学に向けた取り組みを行っている。 	
評価項目	実施の可否
① 保護者等（利用希望者を含む）に対してサービス選択に必要な情報を提供している。	○
② サービスの開始にあたり保護者等に説明し同意を得ている。	○
③ サービス利用開始後に、子どもの不安やストレスが軽減されるような支援を行っている。	○
④ 就学がスムーズに行われるよう、保育の方法や保護者とのかわりに配慮されている。	○

評価分類 (2) 手順を定め、その手順に従ったアセスメントを行い、サービス実施計画を策定している。		A
<ul style="list-style-type: none"> ・ 保育に必要となる子どもの心身状況や生活状況等は、児童票・健康記録等の法人各園統一した書式に記入して一人ずつのファイルにまとめ保管している。 ・ 年間指導計画は保育課程を踏まえ、子どもの状況や保護者の要望等を考慮しながらクラスごとに作成し、月案と週案につなげている。2歳児までは個別指導計画を作成し園長が内容を確認するとともに職員会議で職員間で共有している。配慮が必要な場合には個別の保育計画を作成している。 ・ 評価と反省は月毎に、振り返りと見直しは期毎に行われ、次年度の指導計画作成につなげている。乳児会議、幼児会議、給食保健会議、職員会議で確認し、年間計画、月案、週案に反映させている。 		
評価項目		実施の可否
①	手順を定め、その手順に従ってアセスメントを行っている。	○
②	指導計画を適正に策定している。	○
③	状況に応じて指導計画の評価・見直しを行っている。	○

評価分類 (3) サービス実施の記録が適切に行われている。		A
<ul style="list-style-type: none"> ・ 日々の保育の様子は保育日誌に記載している。乳児では保育日誌に個別記録も記載し、保護者にむけては複写式の連絡ノートで健康状態等も細かく記載して子どもの様子を共有している。 ・ 子どもに関する情報や記録類は、事務所とクラスで管理し個人情報に関する書類は事務所内の鍵付キャビネットに保管している。事務所からの持ち出しは原則禁止とし、職員が記録や閲覧する場合は事務所内で行っている。 ・ 乳児会議、幼児会議、給食保健会議、職員会議で子どもの状況等に関する情報を共有している。日々の申し送りや引き継ぎ等は昼会議で行い内容を伝達記録に記載している。 		
評価項目		実施の可否
①	子どもに関するサービス実施状況の記録が適切に行われている。	○
②	子どもに関する記録の管理体制が確立している。	○
③	子どもの状況等に関する情報を職員間で共有している。	○

評価分類 (4) 提供するサービスの標準的な実施方法が確立している。		A
<p>・法人の統一したマニュアルとして、実務・心得とコンプライアンス・危機管理の項目別に4冊の「施設運営の手引き」を各園に設置し、小学館アカデミーとしての保育業務の標準化を図っている。全職員が配属前研修を受け、マニュアルに沿った業務内容を学んでいる。マニュアル類は事務室に置かれ、職員はいつでも自由に閲覧し業務内容について確認することができる。</p> <p>・マニュアルの内容についての見直しや改定は法人本部で行われ、内容について改訂があった場合には、業務連絡として標準化したものが追加される。園内での業務について見直し等がある場合は職員会議で話し合い共有するしくみとなっている。</p>		
評価項目		実施の可否
①	提供するサービスについて、標準的な実施方法が文書化されサービスが提供されている。	○
②	標準的な実施方法について見直しをする仕組みが確立している。	○

評価分類 (5) 利用者の安全を確保するための取組が行われている。		A
<p>・緊急時の対応については、「施設運営の手引き」の内容に基づき実施する体制が整っており、職員間でも周知している。感染症の発生があった場合には、園内に掲示を行い速やかに保護者に伝えている。</p> <p>・月1回の避難訓練、年3回の保護者引き取り訓練の実施、地域の警察や消防署との連携もとれており災害時に備えている。非常時にはブログ、NTT伝言ダイヤル、安心伝言板等で保護者に連絡するしくみになっており園内には非常食と水も常備している。</p> <p>・子どもの安全確保にむけて、散歩で園外に出かける際には信号や道路横断時の危険、公園での遊具の使い方等について伝え、園内では定期的に危険個所の確認をして室内の環境を整え、園内外のヒヤリハットマップを作成し安全に関する意識を高めている。</p>		
評価項目		実施の可否
①	緊急時（事故、感染症の発生時など）における子どもの安全確保のための体制が整備されている。	○
②	災害時に対する子どもの安全確保のための取組を行っている。	○
③	子どもの安全確保のためにリスクを把握し対策を実行している。	○

<サービス実施に関する項目>

共通評価領域 2 人権の尊重
<p>・「あったかい心をもつ子どもに育てる」という小学館アカデミー保育園の共通理念の達成に力を入れており、子どもの気持ちに寄り添い、子どもの意思を尊重した保育を進めている。その中でも、日々の保育の中で職員が子どもに対して感情的な声かけをしないことが第一と考え、職員への指導理解を進めている。</p>
<p>・保育に従事する者として守るべき法、倫理、規範の周知については、「運営の手引きについて」の配付や研修、入社後3年目までの振り返り研修を実施している。職員会議の中でも確認し合い意識の高揚を図っている。また、法人として個人情報保護方針を定め、入園時の保護者会で説明し周知している。個別相談などに関しては面談室を使用して、プライバシーには配慮している。</p>
<p>・日々開催している昼打ち合わせ（昼打ち）では、当日の子どもの様子、連絡ノートなどで気になる事柄について、乳児、幼児の当日の担当職員、専門職、経営層などが共有し、必要に応じてアドバイスし合うことにしている。また、職員の経験によって「気づき」が異なることを踏まえ、昼打ち合わせを通じて職員の意識の高揚にも繋げている。</p>

評価分類 (1) サービスの実施にあたり、利用者の権利を守り、個人の意思を尊重している	A
<p>・日常の保育にあたっては、子どもの意思を尊重することに努め、子どもの気持ちに寄り添った声かけを実践している。他のクラスにも声が届く環境になっていることから、職員は特に配慮していることがうかがえた。</p> <p>・法人理念「あったかい心をもつ子どもに育てる」を各クラスに掲示し、職員がいつでも振り返られる環境整備にも取り組んでいることが確認できている。</p> <p>・日々開催している昼打ち合わせ（昼打ち）では当日の子どもの様子、連絡ノートなどで気になる事柄について、乳児、幼児の当日の代表、専門職、経営層が共有しアドバイスし合っている。</p> <p>・登降園時の様子や連絡ノートの記載事項などから、保護者の心身状況などにも配慮しており、育児の疲れなどが見受けられる際には個別に面談する機会を設けたり、必要に応じて専門の機関を紹介して、家庭においても適切な保育がなされるように配慮している。</p>	
評価項目	実施の可否
① 日常の保育にあたっては、個人の意思を尊重している。	○
② 子どもを尊重したサービス提供について共通の理解を持つための取組を行っている。	○
③ 虐待の防止・早期発見のための取組を行っている。	○

評価分類 (2) 利用者のプライバシー保護を徹底している。	A
<p>・入園時には、個人情報等の取扱いに関する書面によって、守秘義務、利用を明示、緊急連絡システムなどの説明と、同意書によって承諾、非承諾の意思を示すことができるようにしている。</p> <p>・職員に対しては入社時研修において、個人情報の取り扱いに関する説明を行い誓約書を交わしている。また、児童票などの機密性の高い書類については事務室内の施錠できる書庫に保管している。</p> <p>・子どもや保護者に関する情報（事項）を外部とやりとりする必要がある場合には、事前に保護者の同意を得るようにしている。例えば、通院などが必要になった際には、看護師から状況を保護者に電話連絡して同意を得て通院することになっている。保険証をすぐに持って来られない時には児童票を提示することをその際に保護者に同意を得て対応している。</p> <p>・連絡ノートから家庭での保育の様子などを把握しながら、気になることが続いている場合には保護者と登降園時に話をしている。状況の確認をした上で、園では専門職と相談し対応方法を決めそれを保護者に伝え、さらに家庭での生活面での進め方などを話し合いながら園と家庭が協力して対応するよう進めている。</p>	
評価項目	実施の可否
① 子どもや保護者に関する情報（事項）を外部とやりとりする必要がある場合には、利用者の同意を得るようにしている。	○
② 子どもの気持ちに配慮した支援を行っている。	○

<サービス実施に関する項目>

共通評価領域 3 意向の尊重と自律生活への支援に向けたサービス提供
<ul style="list-style-type: none"> ・保護者とは日頃から会話の機会を持ちコミュニケーションを図るように努めており、意見や要望は、懇談会や個人面談、園内の意見箱設置等で把握に努め、年3回の運営委員会開催を含め保育内容の質の向上に取り組んでいる。 ・異年齢交流の機会を積極的に設け、子どもたちは担任以外の職員ともコミュニケーションが図れるようにしており、自由に意見を伝えることができるようにしている。 ・子どもたちが自分で遊びをえらび主体的に活動できるように遊具を取りやすい場所に設置し、年齢や発達に応じた玩具や絵本を提供している。
<ul style="list-style-type: none"> ・行事終了後はアンケートを行い保護者からの意見や要望の把握に努めており、アンケート結果はまとめて掲示している。アンケート結果は職員会議などで話し合いながら分析し、園全体の保育力の向上につなげることを目指している。保護者からの要望を受け行事の内容等について振り返りと反省を行っているが、次年度の行事開催にむけて活かされていない点もあることを課題としている。さらにアンケートを有効に活用するための取り組みに期待したい。
<ul style="list-style-type: none"> ・おままごとやごっこ遊びなどの際に、子どもが集中して遊べる環境となるような配置に配慮しており、遊びや生活動線を考えて設定することに努めている。 ・遊びには静と動を両方経験させることを心がけており、どちらも楽しめることが大切だとしている。静の遊びの際には、じっくりと取り組める環境になることを目指している。 ・その積み重ねにより自己肯定感が育ち、自分ができるようになったことなどを保育士にも伝えたいという気持ちの芽生えにつながり、自己主張ができる子どもへとつながっていくとしている。

評価分類 (1) 利用者の意向の集約・分析とサービス向上への活用に取り組んでいる。	A
<ul style="list-style-type: none"> ・毎日の登園、降園時には保護者に声をかけ子どもの様子を共有することで信頼関係作りに努めている。保護者からの意見や要望は、懇談会や個人面談で把握に努め、園内2か所に意見箱を設置することで意見を伝えやすいように取り組んでいる。年3回の運営委員会では、各クラスの保護者代表、地域の方、法人本部の施設担当者と園長が出席し話し合い、保育内容の向上を目指している。 ・行事終了後にはアンケートを行い保護者からの意見や要望の把握に努めている。アンケート結果はまとめて園内に掲示している。 	
評価項目	実施の可否
① 利用者満足度の把握に向けた仕組みを整備している。	○
② 利用者満足度の向上に向けた仕組みを整備し、サービス向上に取り組んでいる。	○

評価分類 (2) 利用者が意見等を述べやすい体制が確保されている。	A
<ul style="list-style-type: none"> ・保護者とは日頃から会話の機会を設けコミュニケーションを図るように努めている。連絡ノートでのやりとりや希望に応じて面談を行い、懇談会でも意見や要望を伝えてもらうようにしている。異年齢保育によってクラスを超えた交流が多く持たれていることから、子どもたちは担任以外の職員にも自由に意見を伝えることができている。 ・苦情解決の仕組みについては入園時に説明し、保護者に配付している「入園のしおり別紙」に苦情相談窓口が記載されている。園内には掲示のほか、閲覧用ファイルも置かれている。 ・子どもや保護者からの意見等があった場合には、職員間で共有し必要に応じて会議等で話し合い迅速に対応できるようにしている。 	
評価項目	実施の可否
① 子どもや保護者が相談や意見を述べやすい環境を整備している。	○
② 苦情解決の仕組みが確立され十分に周知・機能している。	○
③ 子どもや保護者からの意見等に対して迅速に対応している。	○

評価分類 (3) 子ども一人ひとりの発達の状態に応じた援助を行っている。		A
<p>・日々の保育の中で子どもの気持ちに寄り添いやさしい言葉がけを大切にしている。子ども同士のトラブル等があった場合には、双方の意見を聞き気持ちを代弁したり仲立ちして丁寧に接している。</p> <p>・七夕祭り、運動会、クリスマス会、お店やさんごっこなどの行事を通して異年齢での交流や協力してやり遂げることなどを経験している。年長児は給食配膳などの当番活動を通して自信につなげている。</p> <p>・子どもたちが自分で遊びを選び、主体的に活動できるように遊具は取りやすい場所に設置している。年齢に応じた玩具や絵本の提供を心がけている。</p> <p>・クラス担任の保育士を中心に、園長や主任、看護師、嘱託医と連携を図りながら、保護者の気持ちに配慮して組織一丸となって自然な形で援助できるように努めている。</p>		
評価項目		実施の可否
①	子ども一人ひとりを受容し、その発達の過程や生活環境などの理解を深めて働きかけや援助が行われている。	○
②	様々な人間関係や友達との協同的な体験ができ、生活が豊かになるような環境が整備されている。	○
③	子どもが主体的に活動し、自分を表現し、他者の表現を受け入れる力が育つように支援している。	○
④	特別の配慮が必要な子ども（障害のある子どもを含む）の保育にあたっては、他の子どもとの生活を通して共に成長できるように援助している。	○

<サービス実施に関する項目>

<p>共通評価領域 4 サービスの適切な実施</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・朝夕は合同保育となっており、幼児が乳児のお世話をしたり、乳児が遊びを教えてもらったりしながら楽しく遊べるような環境を整えている。 ・年度初めの懇談会で食育計画について説明し、毎月の献立表や給食だよりの配付、園内のサンプル展示のほか食育アルバムでは食育活動の様子などがわかりやすくまとめられ食育の取り組みを伝えている。 ・保健年間計画に基づいて看護師が中心となり保健指導を行い、からだのしくみや感染症予防について分かりやすく伝え指導している。
<ul style="list-style-type: none"> ・登園時は担任が受入れし視診をするとともに家庭での子どもの様子や健康状態、配慮すべき点等について保護者に確認しているが、申し送り等が十分にできていないことがあるため、引き継ぎ方法を含め検討の必要を課題としている。 ・午睡時間はクラスごとに定め実施し保育時間が長い場合は休息できるように配慮しているが、子どもの年齢や発達等によって睡眠時間に個人差があることから、一人ひとりの状況に応じて午睡時間を検討することを課題としている。
<ul style="list-style-type: none"> ・基本的な生活習慣については、日々の保育の中で出来たことを褒める、手助けする、見守る姿勢を持ちながら対応している。またクラスとしての大きな流れはあるが、個別の対応を心がけ、その子の様子に合わせて進めることに努めている。 ・保護者にも保育園での様子を伝えることに努め、保育園と家庭との進め方に違いがあることで、子どもが混乱しないようにしている。また、生活習慣の支援に関しては、個別の対応とともに、懇談会などでクラスの様子として伝える機会をもつことで、保護者にも見通しを持てる配慮もなされている。

<p>評価分類 (1) 家庭と保育所の生活の連続性を意識して保育を行っている。</p>	<p>A</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・登園時は担任が受入れし視診をするとともに家庭での子どもの様子や健康状態、配慮すべき点等について保護者に確認している。必要な情報は視診表に記録して職員間で情報共有している。 ・発達の状態に応じて、食事や排せつなどの基本的な生活習慣の大切さを伝え丁寧に指導している。子どもが自分でやりたいと思う心や自分でできた喜びを育てるために、トイレではうわばきやスリッパの置き場所をテープでマークするなどわかりやすい表示の工夫をしている。 ・毎日の午睡時間帯は各クラスごとに定められているが、保育時間が長い場合や体調等に応じて午睡時間以外でも休息をとることができるように、子ども一人ひとりの状況に応じて配慮している。 ・降園時にはその日の子どもの状況を保護者に直接伝えるとともに乳児クラスでは連絡ノートに細かく健康状態等を記録している。 ・保護者からの意見や要望は、毎日の登降園時のほか懇談会、個人面談、運営委員会等の機会に聞くことができる。また園内2か所に意見箱を設置し、直接伝えられない場合にも対応している。 	
<p>評価項目</p>	<p>実施の可否</p>
① 登園時に家庭での子どもの様子を保護者に確認している。	○
② 子どもが基本的な生活習慣を身につけ、積極的に身体的な活動ができるよう支援を行っている。	○
③ 休息（昼寝も含む）の長さや時間帯は子どもの状況に配慮している。	○
④ お迎え時に、その日の子どもの状況を保護者一人ひとりに直接伝えている。	○
⑤ 保育所の保育に関して、保護者の考え方や提案を聴く機会を設けている。	○

評価分類 (2) 保育時間の長い子どもが落ち着いて過ごせるような配慮をしている。		A
<ul style="list-style-type: none"> ・保育時間の長い子どもが安心して落ち着いて過ごせるように、少人数で遊びに取り組むことができるように配慮するとともに、職員間で話し合い、当番体制や環境設定を工夫している。18時以降は夕おやつを提供、19時以降は夕食を提供し落ち着いて過ごせるように配慮している。 ・朝夕は合同保育となっており、決められた保育室を使用して過ごしている。幼児が乳児のお世話をしたり、乳児があそびを教えてもらったりしながら楽しく遊べるような環境を整えている。 		
評価項目		実施の可否
①	保育時間の長い子どもが落ち着いて過ごせるような配慮をしている。	○
②	年齢の違う子どもとも楽しく遊べるような配慮をしている。	○

評価分類 (3) 子どもが楽しく安心して食べることができる食事を提供している。		A
<ul style="list-style-type: none"> ・2歳児クラスからは担任と一緒に給食をとりながら食事のマナー等についても伝えることで、子どもたちが落ち着いて食事がとれるように支援している。 ・担当の栄養士が作成した園独自の献立表に従い園内で調理を行っている。栄養士はクラスを巡回して子どもに声掛けし、食材について説明したり残食状況を確認しながら、味付けや切り方等への工夫につなげている。行事では担任と栄養士が連携し、行事についての理解を深めるための取り組みを行っている。 ・アレルギー児に対しては医師の指示書に基づいて毎月、保護者と確認し合い個別に対応している。誤食がないように決まった色のトレーを使用しラップをかけて運び、チェックシートを活用して調理室と保育室で2重にチェックを行っている。 ・年度初めの懇談会で食育計画について説明し、毎月終了後に口頭や連絡ノートに記載している。毎月の献立表や給食だよりの配付、園内には毎日のサンプル展示のほか食育アルバムでは食育活動の様子などが写真でわかりやすくまとめられている。 		
評価項目		実施の可否
①	子どもが楽しく、落ち着いて食事を取れるような雰囲気作りに配慮している。	○
②	メニューや味付けなどに工夫をしている。	○
③	子どもの体調や文化の違いに応じた食事（アレルギー対応を含む）を提供している。	○
④	保育所の食事に関する取組を保護者に対して伝える活動をしている。	○

評価分類		
(4) 子どもが心身の健康を維持できるよう支援を行っている。		A
<p>・保健年間計画に基づいて看護師が保健指導を行い、子どもたちにわかりやすく「からだのしくみ」等について話している。感染症予防については日頃から手洗いの大切さを伝え、実際には1歳児から手洗いをはじめ2歳児では正しく洗えるように看護師を中心に指導している。</p> <p>・定期的な健康診断、歯科検診のほかプール前の検診、視聴覚検診も行っている。検診結果は保護者に伝えるとともに職員会議で共有している。</p> <p>・感染症やSIDS（乳幼児突然死症候群）については入園時に園のしおりを用いて説明している。園では毎日の午睡チェックと記録を行い予防に努めている。感染症の予防については保健だよりで伝えるほか、園内に掲示して注意を呼びかけている。</p>		
評価項目		実施の可否
①	けがや病気を防止するため、日頃から身の回りの危険について子どもに伝えている。	○
②	健康診断・歯科健診の結果について、保護者や職員に伝達し、それぞれの保育に反映させている。	○
③	保護者に対して感染症や乳児突然死症候群（SIDS）等に関する情報を提供し、予防に努めている。	○

<組織マネジメントに関する項目>

<p>共通評価領域 5 運営上の透明性の確保と継続性</p>
<p>・中期計画については現状分析をもとに課題や問題を抽出し、法人のフォーマットに従って園長が現場の現状を踏まえて策定している。中期計画を踏まえて、具体的な年度単位の事業計画を策定している。職員にはテーマを割り振り実施につなげスケジュールをガントチャート化して進めている。ただし、計画策定については園長中心で担っているように見受けられるため、職員の参加についても検討されたい。</p>
<p>・保護者会や運営委員会など保護者が出席する会議体では、意向や要望を丁寧に傾聴し、園運営に反映させることに努めている。また、園から伝える事項（園の取り組みや質問に対する回答など）については、さらに具体性や分かりやすさに配慮することを目指している。また、保護者会では保護者と話し合える時間をさらに設け、コミュニケーションを深めることを心がけている。</p>
<p>・運営委員会、保護者会、意見箱、行事アンケート、第三者評価受審などによって園の取り組みを定期的に評価を行う体制を整備し、結果の共有、検討、必要な改善に向けた計画の実行に結びつけている。また、行事開催後に実施しているアンケートについては集計結果を掲示し、保護者へフィードバックしている。さらに、アンケート結果の詳しい報告や次年度の行事に反映せることを目指している。</p>

<p>評価分類 (1) 事業所が目指していること（理念・基本方針）を明確化・周知している。</p>	<p>A</p>
<p>・法人共通理念「あったかい心をもつ子どもに育てる」をはじめ、7つの基本方針や保育目標を掲げ、ホームページや、各種パンフレット、園の玄関および事務室内に掲示し周知に努めている。</p> <p>・保育課程にも理念と方針を盛り込み、職員、利用者に理解を深めてもらうとともに、保育の中に反映させるようにしている。</p> <p>・保護者に向けては、入園説明会や保護者会で読み合わせ、「入園のしおり」への掲載などによって、理解を促している。また玄関に掲示し保護者や、来訪者の目に触れるようにしている。</p> <p>・職員については、入社時の研修、職員会議の中で理念、30秒の誓いの読み合わせを行なっている。また、事務室や各クラスに掲示して、日頃より職員の目に触れるようにしている。</p> <p>・職員の言動や行動で気になったり、迷う様子が見受けられた際には、園長が理念に基づいて指導助言することを心がけている。</p>	
<p>評価項目</p>	<p>実施の可否</p>
① 理念・基本方針を明示している。	○
② 理念・基本方針について、職員の理解が深まるような取組を行っている。	○
③ 理念・基本方針について、利用者本人や家族等の理解が深まるような取組を行っている。	○

評価分類		B
(2) 実践的な課題・計画策定に取り組んでいる。		
<p>・現状分析をもとに課題や問題を抽出し、法人のフォーマットに従って理念・基本方針の達成に向けた中期計画を園長が中心となり現場の現状を踏まえて策定している。</p> <p>・中期計画と同様に法人のフォーマットに従って、具体的な年度単位の事業計画を策定している。</p> <p>・個々の計画は達成度や目標を設定し、職員にはテーマを割り振り実施につなげている。また、計画はガントチャートによって明示化し、職員会議などを通じてテーマ毎に園長が進捗状況を確認して、円滑な推進を支援している。</p> <p>・計画推進にあたっては園長中心になりがちのため、さらに職員の自主性や主体性が発揮できるような仕組みを構築することを目指している。</p> <p>・法人内の楽習保育®全体発表会での発表園となっていることを踏まえ、ピオトープについては特に力を入れている。前年度から、ピオトープのあり方は検討課題であり、また楽習保育®のテーマとして取り上げていくことを保護者とも共有して進めている。</p>		
評価項目		実施の可否
①	理念・基本方針の実現に向けた中・長期計画が策定されている。	○
②	中・長期計画を踏まえた年度単位の事業計画が策定されている。	○
③	事業計画の策定が組織的に行われている。	○
④	事業計画が職員に周知されている。	●
⑤	事業計画が保護者等に周知されている。	●

評価分類		A
(3) 管理者は自らの役割と責任を職員に対して表明し、事業所をリードしている。		
<p>・経営層の役割については「施設運営の手引き」に明示するとともに、入社時研修において説明し周知に努めている。また、「手引き」のコンプライアンス編に綴じ込まれている職務分担表には、園長、主任保育士、保育士、看護師、調理、パート、事務用務員、嘱託医師についての職務内容を表記し、理解を深めてもらえるようにしている。</p> <p>・園長が園運営における最終責任者であることは職員会議等の場で伝え、主任は担任を兼務しつつ、保育全般の統括的役割を担うことにしている。また、園長が実際に保育に入ったり、書類の記入方法などを指導したりして園運営をリードしている。</p> <p>・保育の質の向上と業務の効率化を図ることを目的に、職員がそれぞれが保育の中でやりたいことを実現できるように、フリーの職員を配して、業務を分散できるようにしている。日々の勤務シフトを園長が組み、業務を分散してスムーズかつ保育の質向上に向けた運営につなげている。</p>		
評価項目		実施の可否
①	管理者自らの役割と責任を職員に対して表明している。	○
②	質の向上に意欲を持ちその取組に指導力を発揮している。	○
③	経営や業務の効率化と改善に向けた取組に指導力を発揮している。	○

評価分類 (4) 質の向上に向けた取組が組織的に行われている。		A
<ul style="list-style-type: none"> ・運営委員会、保護者会、意見箱、行事アンケート、第三者評価受診などサービス内容について定期的に評価を行う体制を整備し、結果を共有して必要な改善に向けた計画の実行に結びつけている。 ・意見箱を玄関に設置して保護者からの意見や、要望を受け付けている。年間4件程度の投函があり、安全に関することが多く迅速な対応を進めている。口頭での相談は、家庭の事情や発達に関する内容が中心になっており、対応可能な内容については親身になって応えることを心がけている。 ・保護者参加の行事についてはアンケートを実施しており、回収率は5割程度になっている。行事の評価と感想といったバランスの取れた内容に改善することを目指している。アンケート結果を保護者にフィードバックする際には、内容によっては園としての見解や対応を掲示している。 ・運営委員会では保護者と話し合う時間が設けられていることを踏まえ、保護者会においても保護者と話し合える時間を作ることを目指している。 		
評価項目		実施の可否
①	サービス内容について定期的に評価を行う体制を整備している。	○
②	評価結果に基づき組織として取り組むべき課題を明確にし、改善策・改善実施計画を立て実施している。	○

評価分類 (5) 経営環境の変化等に適切に対応している。		A
<ul style="list-style-type: none"> ・高津区園長会、研修、高津区役所からのメール、福祉サービスに対するニーズ、案内手紙などで情報を収集し、事業経営をとりまく環境を把握している。 ・経営環境に関わる事柄として、高津区園長会では小学校長も参加するので、入学に向けた情報や、他園からは行事の実施に関する情報が共有されており、地域としての情報収集の場として重視している。川崎市役所も参加しているので、川崎市の保育指針や、新しい制度についても示されるため情報を得る適切な機会としている。 ・本部からの経営に関するデータが毎月示され、事務専門職と話し合いを行いながら状況に応じて支出の引き締めを行なっている。日々の保育材料費なども法人で決められた年間の予算のほか、助成金なども盛り込んで、子どもに還元することを目指している。 		
評価項目		実施の可否
①	事業経営をとりまく環境が的確に把握されている。	○
②	経営状況を分析して改善すべき課題を発見する取組を行っている。	○

<組織マネジメントに関する項目>

共通評価領域 6 地域との交流・連携
<ul style="list-style-type: none"> ・従前より地域の高齢者施設と交流を図っており、施設に出向いて遊戯や歌を披露して世代を超えた交流を図っている。新たな園長も同様に交流することを心がけている。また、法人の川崎地区連絡会や高津区園長会で地域の情報を収集し、協働体制が構築できるようにしている。 ・地域の社会資源の活用としては、地元のJリーグ所属のサッカーチームに依頼し、近隣の公園で選手から年長クラスに向けたサッカー教室を開催している。さらに、地域の子どもたちも参加できるようにして、交流の輪を広げることに取り組んでいる。また、警察に依頼して園児を対象にした交通安全教室を開催している。更に今後はイベント的なつながりから、日常的なつながりを目指している。 ・ボランティアの受け入れについては、申請書、心得、オリエンテーションの開催要項、個人情報遵守の確認などが盛り込まれた法人共通のマニュアルによって対応することになっている。また、姉妹園からの実習なども受け入れている。ただし、現在は受け入れ実績があまりないことを踏まえ、今後積極的に受け入れを目指している。

評価分類 (1) 地域との関係が適切に確保されている。	A
<ul style="list-style-type: none"> ・地域社会に対して開かれた組織となるよう、事業所に関する情報を川崎市ホームページ、高津区ホッと子育て（みやうち）などで開示している。 ・法人共通のボランティア申請書、心得、オリエンテーション実施要項、個人情報遵守の確認など受け入れ体制はマニュアルに明記され、円滑に活動できる体制が整っている。 ・年長クラスは小学校からの情報も多くあり、地域の連携は取れている。ただし、乳児クラスなど年長以外は近隣に店舗などが少なく地域との関わりが少ない。今年の勤労感謝の日には、乳児クラスが足を伸ばして商店などに顔を出すような機会を計画している。 ・民生委員をはじめ、地域の関係者には園行事へ招待するなど、開かれた園となるように地域とのつながりを深めることを目指している。 ・園見学者に対しても地域交流の行事案内を渡して参加を促している。また園内にも行事の案内の張り出しなども検討している。今後は、より地域の町会長などとの連携を深め、地域の子育てに生かすことを検討している。 	
評価項目	実施の可否
① 地域社会に対して、開かれた組織となるよう、事業所に関する情報を開示している。	○
② 事業者が有する機能を地域に提供している。	○
③ ボランティアの受け入れに対する基本姿勢を明確にし体制を確立している。	○

評価分類		A
(2) 地域の福祉向上のための取組を行っている。		
<p>・高津区園長会は年3回、同じく高津区園長会、看護師、栄養士会などの専門職毎の会もある。法人の園長会で川崎地区の事務連絡的な会議もあり参加している。高津区園長会はグループディスカッションの時間もあり、情報を密にやり取りでき地域の福祉、子育て支援について情報の共有を行っている。</p> <p>・まだ、地域とのつながりは少ないが、高齢者施設に行って交流を図ってきたので、新赴任の園長となっても前年と同じように進め、今後どのようなことができるのか新たに考えていきたいとしている。</p> <p>・在園世帯や、見学者にブログなどで参加を呼びかけ園で地域交流を年4回実施している。その際には質問があれば、保育に関する相談も受け付けている。また、地域交流会では専門職が食育について話すなど、専門職による話を聞く実践の場として実施している。園庭開放も行なっているが、参加者は少ない。</p> <p>・園見学者にアンケートを行うことも必要に応じて行ない、地域の子育て支援につながる情報の収集とニーズを把握し今後の計画につなげていきたいとしている。</p>		
評価項目		実施の可否
①	関係機関・団体との定期的な連絡会等に参画している。	○
②	地域の関係機関・団体の共通の課題に対して、解決に向けて協働して具体的な取組を行っている。	○
③	地域の福祉ニーズを把握するため事業・活動に参加している。	○

<組織マネジメントに関する項目>

共通評価領域 7 職員の資質の向上の促進
<ul style="list-style-type: none"> ・ 職員の得意分野を活かして積極的に業務に取り組めるようにしたり、有給などを適切に取得してリフレッシュしながら勤務できる職場環境作りに取り組んでいる。有給休暇については皆が取れるようなシフト調整に取り組んだり、職員の健康管理やモチベーションを重視したりして、取得促進に取り組んでいる。ワークライフバランスを大切にした人事管理に取り組んでいることがうかがえる。 ・ 行政主催の高津区研修や高津区公開保育をはじめ、法人共通の本部研修や姉妹園保育研修など、充実した研修機会を設けており、職員の資質の向上に取り組んでいる。なお、研修後には報告書を作成したり、職員が意義などで報告して振り返る機会を設けている。さらに、「日常の保育にどのように反映するか」や「どのように反映させたか」を検証することを課題としている。 ・ 保育の質の向上と業務の効率化に向けて、フリーの職員を配置している。職員の業務を分散できるようにしたり、職員が保育に専念できるようにするなど、成果も確認できている。また、経営層（園長、主任）はそれぞれ役割分担を図って園運営や職員指導に取り組んでいる。特に、日々の保育の中に入り、実務（実践）の中で指導することに力を入れている。

評価分類 (1) 事業者が目指しているサービスを実現するための人材構成となるよう取り組んでいる。	B
<ul style="list-style-type: none"> ・ 職員の採用は小学館アカデミー本部採用育成課で行い、新人職員は本部での研修を受けて配属される。座学研修のほか、実際に配属予定の園にて実地研修を行うなど実務へのスムーズな移行に取り組んでいる。 ・ 社内（法人内）認定制度として、保育士向けに法人の幼児教室講師講習、ベビーシッターサービス講習なども用意されている。法人による施設運営手引きや、研修についても経験年数に応じた研修がある。 ・ 更衣室には期待する職員像を掲示しており、日頃より振り返られるようにしている。それぞれの職員が果たすべき事柄を明確にする仕組みが整っている。職員の確保は本部で行なっている。 ・ 通勤時の行動などについて一般的なことは職員会議等で伝えている。但し、社会人としてのモラルについては、本人の自覚を促すことに留まっている。 	
評価項目	実施の可否
① 必要な人材や人員体制に関する具体的な考え方が確立している。	○
② 具体的なプランに基づく人材の確保に取り組んでいる。	○
③ 遵守すべき法令・規範・倫理等を正しく理解するための取組を行っている。	○
④ 職員の育成・評価・報酬（賃金、昇進・昇格など）が連動した人材マネジメントを行っている。	○
⑤ 実習生の受入れと育成が積極的に行われている。	●

評価分類 (2) 職員の質の向上に向けた体制が確立されている。		B
<p>・ 職員の質の向上に向けては入社時研修のほか、3年目までの年次研修、海外研修、キャリア研修、楽習保育®の技術研修などが法人で準備され、勤務時間外で参加可能になっている。そのほか、高津区で開催している研修に参加できるようにしている。研修参加後は報告書を作成し、研修の成果を振り返られるようにしている。また正規職員との面談は年2回実施している。面談票に従って、来季に向けてのスキルアップに繋げている。</p> <p>・ 高津区からも研修があり、職員の希望を聞いて参加できるようにしている。</p> <p>・ 研修参加後に職員会議で報告して他の職員にフィードバックしたり、具体的にどのように日々の保育に反映させるかを検討することを必要としている。職員会議などを活用することを一考されたい。</p>		
評価項目		実施の可否
①	職員の教育・研修に関する基本姿勢が明示されている。	○
②	個別の職員に対して組織としての教育・研修計画が策定され計画に基づいて具体的な取組が行われている。	○
③	定期的に個別の教育・研修計画の評価・見直しを行っている。	●

評価分類 (3) 職員の就業状況に配慮がなされている。		A
<p>・ 有給休暇はもほぼ希望通り取れるようになってきている。必ずしも本人の希望通りに日程にはならない場合もあるが、量的には確保できるようになっている。</p> <p>・ 法人の福利厚生もあり、健康診断など基本的なことのほか、入社順で海外研修なども用意されており、職員のモチベーションにつながっている。</p> <p>・ 職員のやる気向上のためにはワークライフバランスの視点を大切にし、休みを上手く入れて積極的なリフレッシュと、本人の得意分野を活かしながら充実感を持って業務にあたる職場環境作りを目指している。</p> <p>・ 職員一人ひとりのキャリアや、それぞれの保育観を互いに受け入れ、賛同が得られる考え方や価値観は積極的に受け入れるようなマネジメントに取り組んでいる。日常的な関わりを通じて、職員、保護者、子どもとに園長の思いを積極的に伝えることを心がけている。</p>		
評価項目		実施の可否
①	職員の就業状況や意向を把握し必要があれば改善する仕組みが構築されている。	○
②	職員の福利厚生や健康の維持に積極的に取り組んでいる。	○